

気候変動によるリスクと機会の認識とその対応

■ TCFD 提言を受けてシナリオ分析を実施

気候変動イニシアチブ(JCI)に参加し、他企業や自治体、NGO・NPO等との意見交換や情報発信を通じて、刻々と変化する気候変動の状況を把握するとともに、気候変動を回避する活動や業界団体を支援しています。また、一般社団法人日本乳業協会に参画し、同協会が定める気候変動の目標を支持しています。

気候変動に関する情報開示の一環として算定している国内スコープ3は、2021年度は324,452tでした。また、CDP(気候変動)に回答し、前年に引き続き「B」評価を得ました。さらに、TCFD 提言^{*1}を受けて、ヤクルトの事業活動についてRCPシナリオ^{*2}の手法を用いて複数の気候変動シナリオ分析を行いました。

^{*1} TCFD 提言:TCFD(気候変動関連財務情報開示タスクフォース)とは、2015年に金融安定理事会によって設立された国際的組織。2017年に発表されたTCFD 提言(最終報告書)では、気候関連のリスクと機会について情報開示を行う企業を支援することを表明しており、情報開示方法として、複数の異なる条件でのリスク対応戦略を分析する「シナリオ分析」を推奨しています。

^{*2} 最も気温上昇の低いシナリオ(RCP2.6シナリオ=2℃前後の上昇)および最も気温上昇が高くなるシナリオ(RCP8.5シナリオ=4℃前後の上昇)で分析

方法

シナリオ分析は、国際的な認知度や信頼性を考慮し、RCP2.6およびRCP8.5を用い、2℃シナリオと4℃シナリオを検討しました。

期間と地域

ビジネス戦略を考えると、2100年の予測結果は不確定要素が多すぎることに、パリ協定の目指すネットゼロ社会の期限が遅くとも2050年という点等を鑑み、シナリオ分析の対象期間は2050年とし、対象地域は世界各地に所在するグループ拠点としました。

組織の領域

当社は乳製品乳酸菌飲料の「ヤクルト」の販売を中心に、医薬品、化粧品等の製造・販売を行っていますが、シナリオ分析では主な事業である乳製品乳酸菌飲料事業を中心にシナリオ分析を行いました。

シナリオ分析結果

シナリオ分析における仮定・インプットとして、2℃と4℃の世界におけるCO₂排出量、温度上昇の変化にともなう物理的な影響と農作物への影響の関連性、災害の発生の可能性、労働環境の変化、エネルギーミックスおよびエネルギーコストの変化をインプット情報として、公にされてい

る文献を参考に分析しました。2℃シナリオでは、牧草地が減少し、エネルギー作物用の農地が増加し、食料・飼料作物用の農地が減少することが予測されています。この状況下の中、今後当社の主力商品である乳製品乳酸菌飲料の主原料である脱脂粉乳の調達が困難になることが考えられます。例えば、乳以外のたんぱく源(大豆等)や安価な農作物を使用することも必要と考えており、さまざまな安全・安心な原材料をもとに商品開発を進めています。また、乳牛の集乳量増加に資するプロバイオティクス食品の開発等、人以外の動物等への健康に寄与する食品に関しても、商品化の可能性を検討していきます。

また、炭素税・排出権取引等の規制が強化されることが予測され、当社のエネルギーコストの増加や、脱プラスチックへの社会的要請が高まるリスクがあるため、エネルギーのさらなる低減や、容器包装をバイオマス由来で再生可能なプラスチックに切り替える等の対策が必要と考えます。また、低炭素エネルギー比率が増大することが予測され、燃料や電力のコストが増大するリスクがあるため、従来の製法よりもエネルギー効率の良い製法化や、化粧品等の特定商品においては、非加熱製法化等あらゆる手法を検討していきます。

4℃シナリオでは、気候・気象の極端現象がさらに進み、極端な気温上昇は免れない状況が予測されます。2℃シナリオと同じ主原料(脱脂粉乳)の調達困難のほか、ヤクルトレディの労働環境悪化、消費者の外出頻度が減り、感染症の流行や動植物の不調というリスクが考えられますが、当社は乳以外のたんぱく源の検討のほか、人に頼らない「安全・安心」なお届けや新たな病原菌の予防に効果のある有用菌の開発等を検討していきます。

また、洪水や豪雨・降水不足等の水ストレスにもさらされる頻度が高まると予測され、工場の浸水被害や、生産・物流・販売活動等を停止せざるを得ないリスクが考えられます。当社は、持続可能な水資源の利用で製造可能な固形化商品等の開発等を検討していきます。

2℃シナリオ

主な現象	リスク	機会
牧場の減少／ エネルギー作物 [*] の需要増	原料(脱脂粉乳)の調達困難	乳牛の集乳量増加に資する プロバイオティクス・飼料の開発
環境法規制強化	エネルギーコストの増大／ 脱プラスチック対応コストの増大	容器包装をバイオマス由来の プラスチック素材に切替
低炭素エネルギーの 比率増大	燃料、電力コストの増大	化粧品等におけるエネルギー効率の良い製法の 開発や特定商品の非加熱製法の開発等

^{*} エネルギー作物：バイオ燃料の原料とすることを目的として栽培する農作物。穀物、サトウキビ等。乳牛の飼料である穀物がバイオ燃料用途と競合し、生乳からつくられる脱脂粉乳の調達困難を引き起こす可能性がある。